

南アフリカ 核果類の輸出は困難な季節が終了

EUROFRUIT 2023年7月12日

出荷量の少なさと物流問題が出荷シーズンに打撃を与えるも、生産者の収益性は向上し、販売活動は成功

南アフリカの核果類産業は、出荷量の少なさと港湾の物流問題が打撃を与えた困難な輸出シーズンを終了したが、収益性の改善は生産者にとって明るい兆しとなっている。

よく知られている昨年10月のストライキが南アフリカの港や鉄道に影響を与えたことから、輸出業者らは今シーズン、より円滑に進むことを望んでいた。

しかし、輸出業者らはヨーロッパの港での遅延が最小限または皆無であったと強調したものの、輸送は再び遅延に悩まされた。

果樹協会(Hortgro 果実輸出業者も代表する)の貿易・市場部門の責任者であるジャック・デュ・プリーズ氏は、「シーズン前とシーズン中にトランスネット(港湾の管理公社)とともに時間と労力をかけ、計画を立てて、取り組んできたにもかかわらず、昨年と同じ大幅な出荷遅延に直面した」と説明した。

同氏は、「追加の機器が調達され、保守と修理の契約が結ばれたが、それは量的にも質的にも十分ではなかった。約束されていた遅延後の復旧計画は実現できなかった。今年は風による遅れも多く、問題を悪化させた」と述べた。

特にケープタウン港に影響を与えた物流上の問題は、輸出が前年を下回った要因として大いに非難された。

貿易はまた、高いレベルの電力負荷削減(計画停電)による深刻な影響にも取り組む必要があった。

量的には、モモの輸出シーズンは前年比13%減の217万箱で終了し、ネクタリンの輸出量は6%減の774万箱となった。約1,358万箱のスモモが輸出され、これも昨シーズンの数量から13%減少した。

英国、中東、極東は南アフリカの核果類の総輸出量の90%以上を占めており、英国が59%で首位となっている。

残念な数字にもかかわらず、農場では前向きな面があり、生産者らは前年度よりも収益性が改善したと報告した。

デュ・プリーズ氏は、「2022/23年度の核果類の出荷量が少ないことで、生産者は果実をより簡単により良い価格で販売することができた。また、インフラと物流への負荷もいくらか緩和された。来シーズンは再び出荷量の増加が予想される」と言う。

同氏はまた、ソーシャルメディアで広告が表示された回数が多く、オンラインバナーや業界向けの広告への反応が良いことから、今シーズンの販売活動は成功であったと述べた。

執筆者: カール・コレン